

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 37 号

令和2年(2020年)
4月1日 発行



春のうららの通天閣（大阪市浪速区）

今から六十年ほど前、先代住職が本山職員として大師堂でおあさじのお勤めをしていると、外陣に一匹の白い猫が行儀よく親鸞聖人のご真影の方を向いて座っていたそうだと。それからというもの不思議なことに、あたかもお勤めにお参りするかのよう毎日同じ場所に同じ姿勢で座っていた。やがて毎朝お参りされる参詣者の間で評判となり、先代や参詣者たちも、この猫に誘われるようにおあさじにお参りした。

「早朝のお堂の片隅を自分の居場所にして、また誰の目を気にすることもなく凛とした姿勢で座っている猫は、ただただ唯々、朝の安住の間があることを嬉しく思っていたのではないか」。晩年、先代が昔を懐かしみながら話してくれた。

今にして思う、自分の頑張りで居場所を確立しようと焦っていた私に、「そう焦らなくても、すでに与えられているんだよ」と諭してくれていたのだと。

（葦名 彰）

う び がん 到 彼 岸



念仏相続

霊松寺

わきさか よしひと
脇阪義仁



相続

私はこの「正信偈」の一節を読むと「念仏相続」という言葉を思い起こします。「念仏相続」とはお念仏の教えを聴聞し、信心を後世へと伝えていく教えの相続です。

今、私たちのもとにお念仏の教えが届いているということは、七高僧をはじめ数え切れない人々が南無阿弥陀仏の教えを喜ばれ、命をかけて「相続」されてきたということがあるのです。

決して消えない教え

最近、お正月の風物詩が消えつつあります。例えば、門松やしめ縄を飾るお宅が少なくなっています。公園で風あげや羽子板、コマ回しをする子どもも見かけなくなりました。

小説家の小泉八雲氏は明治四十年に「日本人は素晴らしい伝統を持ちなが

ら、ヨーロッパに追いつき追い越そうとするあまりに欧米人の合理的な心と一緒に輸入しようとしている。また器用な日本人はいつか欧米をはるかにしのぐ製品を生み出すだろう。だがその時にはもう日本人ではなく、日本人によく似た西洋人になっているだろう」というエッセイを書かれました。

除夜の鐘も騒音問題で中止する寺院もあり、寺院を取り巻く環境も変わりつつあります。

そんな中でなぜ七高僧や多くのご門徒方が命がけでお念仏の教えを相続されてきたのか、ということをおあらためて私自身考えさせられ、この身に受け止めていかなければならないと頂きました。

(令和元年9月23日の

大阪別院彼岸会より)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

慙^{ざん}愧^ぎを懷^く

大谷大学教授 一樂^{いっしやく} 真師^{まこと}



す。むしろ地獄において、自身と同様、自他ともに傷つけ、苦悩するという痛ましい生き方をする者に救いを届けることを我が仕事としていくことを決意するのです。

仕事をたまわる

令和元年9月19日、法友会研修会が開催され、「真宗における救済」と題して一樂先生よりご講義いただきました。一般に救いとは、私の願いがかなえられたり、私の不都合が取り除かれることを思い浮かべます。

身心ともに衰弱していきます。そのとき耆婆^{ぎば}大臣の言葉によつて、苦悩する阿闍世^{あじゃせ}が慙愧の心を懷いていることに目覚めさせられます。自分の思いを通すためだけにした行いが、自他に羞^はずべき愚かな振る舞いであつたことに気づかされるのです。

安田理深先生は、「救いとは、これのためなら一生をかけてもいい、どんな苦勞もいとわないというものに出遇うことだ」とおっしゃったそうです。

阿闍世^{あじゃせ}のすがた

親鸞聖人は阿闍世の上にござ身のすがたをご覧になり、救いを実感されていました。マガダ国の王となるため、国王である父を殺し、母をも害していった阿闍世王子は、やがて地獄行きの業を造った自身の状況に怖れおののき、

やがて耆婆の勧めにより釈尊の説法に出遇い、阿闍世は苦悩の原因であつた我が身の地獄行きを受け入れていきま

阿闍世の転換

「自分は大丈夫」というとらわれは、「私は救われる必要な

身心ともに衰弱していきます。そのとき耆婆大臣の言葉によつて、苦悩する阿闍世が慙愧の心を懷いていることに目覚めさせられます。自分の思いを通すためだけにした行いが、自他に羞ずべき愚かな振る舞いであつたことに気づかされるのです。

やがて耆婆の勧めにより釈尊の説法に出遇い、阿闍世は苦悩の原因であつた我が身の地獄行きを受け入れていきま

私こそが間違いないのだという思いをくだいてくださるものこそ本願念仏であるといっただかれたのが親鸞聖人でした。そしてその救いのよろこびをいのちをかけて伝えてくださり、いま私の上に念仏が響いてきているのだと聞かせていただきました。

(門川崇志 記)

大阪探検

おおさかじょうてんしゅかく 大阪城天守閣

大阪城公園の中心にある天守閣。現在のものは三代目です。（天守閣とは建物そのもので、最上階を天守といいます）

天守閣の歴史

初代天守閣は大坂夏の陣で落城しました。二代目は1626年、徳川二代将軍秀忠の命により再建されます。しかし1868年、戊辰戦争で天守閣は焼失しました。ただ、石垣や堀だけは残り今に伝っています。三代目が再建されたのは1928年、市民からの寄付を募り、半年で目標額150万円に達し、完成しました。

現在の天守閣

天守（8階）からは



大阪城天守閣



天守からの眺め



鯱・伏虎の原寸大レプリカ

【アクセス】

・大阪メトロ「谷町4丁目駅」「天満橋駅」「森ノ宮駅」、JR 大阪環状線「森ノ宮駅」「大阪城公園駅」から、それぞれ徒歩約10分

地上50メートルより大阪のまちを一望できます。7階は秀吉の生涯を紹介。5階には大坂夏の陣の世界をミニチュア模型で再現してあります。3階、4階には秀吉時代のゆかりの品々や戦国時代の資料、大阪城にまつわる物を展示（2カ月毎に展示替え）。ここで私が目を引かれたのは、当時の日本刀の不思議と光る刃文（刀身に見ることができる波模様のこと）の美しさです。2階はお城の情報コーナー、1階は入り口となっています。

また天守閣前の広場には、初代の石垣が地下に眠っているようで、その一部が土管の中にあるそうです。（普段は蓋が閉まっています）

（寿栄松正頭）

ごえんさんを訪ねて

ほんこうじ よしもと かずひこ
本光寺（東大阪市） 善本和彦 住職



昭和四十二年に三市が合併し東大阪市が誕生。近鉄奈良線河内永和駅界隈が再開発され官庁街となり、隣接する本光寺周辺の町並みも、都市化の波で大きく変わりました。

本光寺は建武年間（一三三〇年代）、中興了源上人が開基と伝えられ、その後、文明年間（一四七〇年代）に覚光法師により再興されました。

現在の本堂は天保十三年に建立されたもので、平成二年に先代住職によつて大屋根の葺き替えや内陣の全面修復が行われました。また、平成二十二年には鉄骨三階建ての納骨堂が完成し、多数の参詣者があります。

宇和島のご出身

住職の善本さんは、愛媛県の宇和島市のお生まれ。東京の日大商学部卒業後、関西を中心に発行された専門雑誌『週刊釣りサンデー』社に就職、二十年間勤められました。



本堂内陣

東京時代に本光寺の次女である坊守様と出会い結婚。本光寺を継職することになり四十二歳で得度の後、五年前に住職を継職されました。

営業マンなら、お客様から信頼を得るのも至難の業。初めの頃、初対面でも家の奥座敷や仏間まで案内していただけという、お寺とご門徒の絶対的な信頼関係には驚いたといえます。

地域に開かれた寺をめざし

以前は山門を閉めておられたので

すが、善本さんが住職を継がれてからは、「防犯・防火対策をしながらも境内や本堂を開放し、いつでもお参りいただけるよう心がけています」とのこと。

「仏教書を読んでも難しく理解に困ることが多い」と言われますが、「本山の『僧伽に学ぶ研修会』でお話しを聴いてはじめてうなずけることがあります」と聴聞の大切さを話されました。

写経の会の再開も準備中で、納骨堂をご縁に新しいご門徒への教化活動にも意欲的です。

趣味はラグビー・柔道・相撲などのスポーツ観戦だそうです。

（長田 譲）

■本光寺（ほんこうじ）

〒577-0054

東大阪市高井田元町2-28-3

電話 06-6781-6365

Fax 06-6781-6375

大悲トピックス

■大阪光専会が開催

1月28日、大阪別院にて、第4回大阪光専会が開催されました。

大阪光専会とは、教務所長、別院輪番と助役、教区選出の宗会議員、各組組長、法友会会長、さつき会会長・副会長、佛青懇和会会長からなる大阪教区の役員会です。

今回は13名が出席し、慶讃法要の御巡教の件を協議した結果、大阪教区として大阪別院で今年の報恩講と併修してお請けすることになりました。

大阪教区総会での審議を経て、最終の決定する運びとなります。法要の内容等詳細は、次回の会議（4月28日）で審議することとなりました。



大阪光専会の様子

（大阪別院輪番 葦名彰）

■法友会研修会

2月28日、大阪別院にて法友会研修会が開催されました。

ご講師は佛光寺派正念寺住職の長田譲師。「寺院経営の今後」これからは〇〇

しよう」という講題でお話いただきました。

入寺されて33年間。お寺の聞法会以外の行事や、仏教会や学校・地域の人たちと関わり、お寺を核とした中間共同体を目指す活動は大変興味深かったです。

また正念寺の会計についても赤裸々にお話しいただき、驚きと共に、今年度中に住職継職を予定している私には大変勉強になりました。

まずは自分自身の何をスキルアップすべきかを考えさせられた研修会でした。

（玉出宗順）



研修会で話される長田師

御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)

FAX (075) 371-5088

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

株式会社 **石留石材**

ホームページ

<http://www.ishitome.co.jp>

本社：京都市中京区堀川御池角

TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑

寺社建築石材まで

〇ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

浜屋は関西最大級のお仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の専門店です。

やすらぎの世界を創る



浜屋

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせお申し込みは

0120-1616-94

●受付時間/午前10時～午後6時30分

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK)

0120-567-701

※2012年5月現在 2-0131

燦ホールディングス グループ

なごみ庵



きた・は・ま

KITAHAMA

法要料理

希望の場所までお届けします。

■四條畷店
■瓜破店
■伊丹店

☎0743-78-7521

☎06-6769-0140

☎072-773-7531

※2012年5月現在 2-0132

だいひ 絵日記

- 1月 2日 (木) 大阪別院修正会
1月10日 (金) 大阪教区新年互礼会
1月17日 (金) 大悲の会編集会議 (総会・第37号読み合わせ)
2月20日 (木) さつき会研修会 (京都国立博物館と三十三間堂参拝) ①
2月21日 (金) 大悲の会編集会議 (第37号読み合わせ)
2月28日 (金) 法友会研修会 (寺院経営の今後・講師：長田 譲師) ②
3月17日 (火) 大阪別院彼岸会 (布教：玉出宗順 師)
3月20日 (金) 大阪別院彼岸会 (布教：佐々木太一 師)
3月23日 (月) 大阪別院彼岸会 (布教：葦名 彰 師)
3月24日 (火) 佛青懇和会研修会 (佛青報恩講・法話：中井翔隆 師)
3月25日 (水) 大悲の会編集会議 (第37号発送作業・第38号内容検討)

(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



■**広告募集**(『大悲』発行は広告によって支えられています)
企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。
1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

■**定期購読**(ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)
『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

表具 **八木米寿堂**

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

協 賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会
(会長：玉出宗順)

協 賛

さつき会

大阪教区の坊守会
(会長：葦名真紀)

協 賛

法友会

大阪教区の住職会
(会長：隅谷俊紀)



どなた様でもお参りいただけます
法要・法話会のご案内



本山佛光寺茶所布教

毎日午前 7 時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

6 月 6 日（土）～ 10 日（水）

法話：寿栄松正顕 師

大阪教区寺院で開催される法話会

◎正念寺（大阪市東住吉区・06-6714-3109）

6 月 14 日（日）午後 2 時

「仏教セミナー」法話：鎌田顕道 師

◎高照寺（堺市北区・072-252-2122）

5 月 16 日（土）午後 3 時

「聞法の集い」法話：菅原良暢 師

※詳細は各寺院にお問い合わせください



編 集 秘 話

新型コロナウイルスの感染者が次々と報告される。そんな中、本山茶所布教の準備にあたって、以前書いた布教原稿を見返した。平成二十一年の原稿に「新型インフルエンザ・マスク不足」という箇条書きがあった。それを見るまですっかり忘れていた。全て忘れ、また繰り返す。そんな我が身の姿を見せつけられた。（玉出）

編 集 後 記

新型コロナウイルス感染が拡大する中、デマ情報も拡散され、店頭からトイレ紙が消えました。デマが拡散されるのは、情報を受け取ったとき、思い込みで決めつけたり、偏った見方をしたり、一を聞いて十を知った気になることが原因だそうです。これってデマ拡散だけでなく、日常生活でもよくあることですね。（隅谷）

大阪教区・別院だより『大悲』 第 37 号（春号）

令和 2 年（2020 年）4 月 1 日発行（発行部数 2200 部）

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田 6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 譲（会長）

隅谷俊紀（副会長）

寿栄松正顕（会計）

玉出宗順（会計）

門川崇志（監事）

佐々木太一

葦名 彰